

DOWAS NEWS

2025

Vol.28 No.2



第29回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水2025久米島大会のお知らせ
海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄… 1

海洋深層水利用学会 2025年度定期総会及び講演会報告
海洋深層水利用学会事務局長 今田千秋…10



海洋深層水利用学会

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会**海洋深層水 2025 久米島大会****開催のお知らせ**

海洋深層水利用学会全国大会

実行委員会委員長 桃原秀雄

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会を、下記の日程で開催いたしますので、ご参加下さい。

大会では、一般講演や見学会等を予定しております。大会への参加および発表の申込みは、下記の要領に従い、DOWAS のホームページ「[参加申込みフォーム](#)」から行って下さい。

海洋深層水利用学会全国大会

実行委員会委員長 桃原 秀雄

1. プログラム

2025 年 11 月 6 日(木)

9：00～ 9：30 受付

9：30～10：00 開会挨拶

10：00～12：00 研究発表

12：00～13：00 昼食

13：00～16：30 研究発表

18：30～20：30 情報交換会

2025 年 11 月 7 日(金)

9：30～11：20 研究発表

11：20～11：30 閉会挨拶他

12：00～13：00 昼食

13：15～16：30 見学会（現地解散、空港および事例共有会会場への送迎有）

13：15～15：30 小学生向け出前授業

17：00～19：00 めんそーれ久米島へ/海洋深層水利活用事例共有会

（兼 全国利用者懇談会）

2025 年 11 月 8 日(土)

9：00～12：00 島内オプションツアー（計画中）

※口頭発表は「15 分／題（質疑含む）」としますので、予めご承知
おき下さい。

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2**第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ****海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄****海洋深層水利用学会**

※プログラム内容や開催時間等に変更が想定されます。詳細および最新情報については、随時 DOWAS ホームページに掲載してお知らせします。参加予定の方は必ず最新情報をご確認下さい。

2. 会 場

具志川農村環境改善センター

〒901-3124 沖縄県島尻郡久米島町仲泊 730 (098-985-2444)

3. 開催方法

開催方法は「現地参加 +Web 参加」のハイブリット開催とさせていただきます。

なお、参加費用に関しましては現地参加者及び Web 参加者とも「従来通りの参加費」を徴収しますのでご理解下さい。

また、Web 参加の方も含めて、事前に学会誌（特集号）を配布致しますので、申込書の住所欄を省略しないよう手続きください。ただし、直前のご対応はできませんのでご注意ください。

4. 参加費

会員 4,000 円 非会員 5,000 円 学生 1,000 円（講演要旨集代含む）

振込先：三井住友銀行 佐賀支店

口座番号：普通 0 6 4 2 0 6 6

口座名義：海洋深層水利用学会事務局（かいようしんそうすいりょうがつかいじむきょく）

通信欄：第 29 回全国大会参加料 氏名●● ●●●

※振込依頼人の欄には「個人名（申込者本人）・所属機関略称」のみを記載して下さい。

（例）

海洋深層水・海底

※振込用紙あるいは利用明細票（ATM の場合）は、大会当日の受付の際に提示を求められますので、各自で保管し、会場まで持参して下さい。

※当日受付の場合は、会員・非会員を問わず、参加費は「5,000 円」とさせていただきます（学生は変更しません）。ただし、韓国及び台湾からの参加者に関しましては全国大会にご参加の際に未払い分も含めて日本円払いで受付けますので、事前振込みは不要です。

※一旦お支払いいただいた参加費は原則として返金いたしませんのでご注意ください。ただし、事前に参加費を振り込み、当日参加できなかった方には、後日、「講演要旨集」掲載の論文誌のみ郵送させていただきます。

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄

海洋深層水利用学会

5. 大会参加及び研究発表申込み方法

申し込み方法：ホームページ[参加申込みフォーム](#)からの申込みをお願いします。ただし、フォームからの申込みが出来ない方は「大会実行事務局・清水（090-4924-3922）」に電話連絡でお申込み下さい。

締切り期日：大会参加申込み締切り 2025 年 10 月 31 日(金)

研究発表申込み締切り 2025 年 9 月 19 日(金)

研究発表要旨集原稿提出締切り 2025 年 9 月 30 日(火)【必着】

※要旨集原稿の提出に当っては“電子データ（Word データ）”での提出をお願いします。PDF データでの提出は受け付けません。

その他：1 題目の講演時間は 15 分（質疑含む）形式で行う予定です。

研究発表のうち、口頭発表題数は 25 題程度に限定する予定です。申込み数が 25 題を超えた分はポスター発表にお回りいただきます。先着順の受付とさせていただきますので、早めにお申込み下さい。

また、口頭発表者（Web 発表者を含みます）は会員の方に限定させていただきますので、ご注意ください。ただし、ポスターセッションでの説明者は非会員でも受け付けますが、申込み者（研究連名者）の 1 名以上が会員であることが必要です。非会員で発表を希望される方は、申込みされる前に会員登録していただきますと、研究発表が可能となるだけでなく、参加費も会員料金となります。入会お申込みは、当学会ホームページ→入会案内から行って下さい。

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

実行委員会事務局：清水建設（株）エッジ・リアリング 事業本部

新エネルギー・エッジ・リアリング 事業部 清水 勝公

〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目 16-1

電話番号 03-3561-4327

FAX 番号 03-3561-8675

メールアドレス katsunori.shimizu@shimz.co.jp

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄

海洋深層水利用学会

6. 研究発表要旨集原稿の作成要領（口頭発表・Web 発表・ポスター発表共通）

- ・要旨集原稿は、「日本語か英語」のいずれかで執筆の上、A4 判 1 頁とします。
- ・提出いただいた原稿はそのまま製版に用いますので、出来るだけ読みやすく仕上げたものを電子データ（PDF 原稿提出は厳禁）で送付して下さい。誤字・脱字の修正程度の簡単な査読を行います（[投稿原稿例参照](#)）。
- ・用紙は A 4 判の上質紙を縦に使い、上下端及び左右端に「25mm」の空白を残して下さい。
- ・記載順序は演題、演者名、本文の順で、詳細は次の通りです。
 - 第一行：演題→フォントを MS ゴシック*12 ポイントで記載、中央に配置。
 - 第二行：演者名→フォントを MS 明朝*10 ポイントで記載、中央に配置。演者は名前の左肩に“○”印を付ける。所属は氏名の後の（ ）内に社名程度を記入。共著の場合、“・”（同一所属）及び“、”（所属が異なる）印で連ねる。2 行になっても良い。
 - 第三行：原則、ブランク行とする。
 - 第四行以降：要旨本文とする。
- ・本文は目的、方法、結果等について記載（図表含む）して下さい（投稿例参照）。
- ・投稿原稿は、2025 年 9 月 30 日(火)必着で、実行委員会事務局までお送り下さい（メールで送信する場合も同様）。
- ・過去に、投稿内容が知的財産権に抵触するケースが発生しています。発表側で調整の上、投稿・発表をお願いします。大会実行委員会事務局および学会事務局では一切の責任を取れませんのでご配慮下さい。
- ・ポスターセッションの展示用パネル（A 1 サイズ縦長×1 枚）、画鋲・テープは主催者側で準備します。ただし、展示と撤去は、原則として発表者側をお願いします。

7. 研究発表要領（口頭発表）

- ・口頭発表は「15 分／題（質疑含む）」とします。
- ・発表の言語は日本語あるいは英語をお願いします。
- ・動画を使用する方は事前に申し出て下さい。

8. 発表用 P P (パワーポイントデータ) の作成・提出について

・事務局への事前提出は不要ですが、各発表者は発表当日の休憩時間を利用して会場に設けたプロジェクター係に提出し、映り具合をご確認下さい。ただし、個人が操作を希望する場合はその限りではありません。

また、発表は「プロジェクター」のみが使用されます。会場の後方でもよく見えるように配慮して作成して下さい。

9. 情報交換会

日 時	11月6日(木) 18:30~20:30
参加費	5,500 円 (事前の払込みをお願いします) ※学生の方の参加は 2,000 円
場 所	久米島イーブビーチホテル (久米島町字謝名堂 5 4 8)
申込み方法	ホームページ 参加申込フォーム からの申込みをお願いします。事前申し込み・支払い厳守をお願いします。

「研究発表申込み」と同要領 (事前申し込み・支払い厳守) をお願いします。

移動方法 研究発表会場から情報交換会会場へのバス送迎あり、ただし、宿泊場所への送迎バスはありませんのでご注意ください (情報交換会会場での宿泊をお勧めします)。

10. 昼食予約

会場周辺のレストランや食堂等の食事が取れる施設の数に限られています。お弁当を持参するか、または事前の「昼食予約」をおすすめします。

昼食代金	1,000 円/1 食 (お弁当+飲み物)
申込み方法	ホームページ 参加申込みフォーム からの申し込みをお願いします。 各日ごとに「要:○」「不要:×」を記入下さい。 <u>当日朝の受付の際にお支払い頂きますが、手配の関係から事前申込みをお願いします (当日申込みが受付できませんのでご注意ください)</u>

11. 見学会

日程：2025 年 11 月 7 日(金)13:00～16:30

集合場所：研究発表会場発

コース：現在調整中（ホームページでご確認ください）

参加費：不要

申込み方法：ホームページ[参加申込フォーム](#)からの申込みをお願いします。

その他：見学会終了後は「空港及び研究発表会場」迄送迎・解散となります。

12.関連イベント

(1)めんそーれ久米島へ/海洋深層水利活用事例共有会（利用促進委員会共催）

開催日時：2025 年 11 月 7 日(金) 17:00～19:00

開催場所：イーブ情報プラザ（久米島町比嘉 1 6 0 - 5 7）

申込み方法：ホームページ[参加申込みフォーム](#)からの申し込みをお願いします。

人数の把握が必要です。事前申込み制をお願いします

※参加費、開催内容他：DOWAS ホームページをご参照下さい。

(2)小中学生向け出前授業（学習推進委員会主催）

開催日：2025 年 11 月 7 日(金) 13:30～15:10

開催場所：美崎小学校（久米島町真謝 1 0 3）

見学について：ホームページ[参加申込みフォーム](#)からの申し込みをお願いします。

見学ご希望の有無を、大会申込時に併せてご連絡ください。

詳細は前述の「11. 見学会」と併せて調整いたします。

13. 宿泊・交通

宿泊・交通（JR、空港等）が混み合うことが考えられますので、インターネット等を利用して各自でお早めにご予約下さい。特に、大会会場廻りの宿泊施設や交通手段が非常に限られております。レンタカー等の使用をご検討ください。

<大会事務局>

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会実行委員会事務局

清水建設(株)エンジニアリング 事業本部新エネルギーエンジニアリング 事業部

事務局 清水 勝公 宛（携帯電話 090-4924-3922）

E-mail : katsunori.shimizu@shimz.co.jp

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄

海洋深層水利用学会

〈投稿原稿例〉

S0-1. 台湾における海洋深層水の資源利用の現状

○高橋 正征

(台湾国立中山大学海洋科学学院アジア・太平洋海洋研究センター)

1. はじめに

1970 年始めの第一次石油ショックを受け、世界の国々は石油に代わるエネルギー資源の探索を始め、その一つとして深層と表層の温度差を利用した海洋温度差発電 (OTEC) が注目された。台湾は熱帯・亜熱帯に位置し、東海岸が急峻で OTEC に適しているので、1989 年の暮れにフィンランド、フランス、フランス領ポリネシア、イタリア、日本、オランダ、スウェーデン、台湾、英国、米国の 50 人以上の関係者の支援を得て、国際海洋温度差発電・海洋深層水協会 (IOA, International OTEC/DOWA Association、当初は OTEC だけで後から DOWA が加わった) の NPO 法人がつくられ、1990 年春から 2002 年冬まで 13 年間にわたって 13 巻 (年 4 回で合計 52 号) の IOA Newsletter が発行され、同時に、しばしば国際会議を開いて事業化のための啓蒙活動が行なわれた。

これとは別に、1990 年代後半から日本で盛んになった海洋深層水の多様な利活用に刺激され、台湾での海洋深層水の関心が高まり、台湾政府は 2004 年始めに工業技術研究院東京事務所から日本からの専門家を派遣を要請し、たまたま私がそれを受けることになった。同年 5 月に訪台し、中央と地方の両政府・研究機関・大学・企業の関係者と会って関心を聞いて、提案をまとめ 10 月に再訪して説明した。

2. 台湾の海洋深層水資源利用の現状

私の提案を参考に、2005-07 年にかけて花蓮港から七星潭に至る海岸線に沿った所に、

南側の花蓮港近くには台湾肥料の工場跡地を利用して台湾海洋深層水公司、その北側には光隆生科技公司、さらに北側に東潤水資源公司といった民間企業がそれぞれ 5~10km の間隔を置いて海洋深層水の取水施設と工場や水産生物養殖施設などを建設した。それぞれの会社は、いずれも日本の影響を大きく受け、瓶詰め飲料水、海洋深層水塩、苦汁、化粧水、酒などを生産して国内と一部は中国向けに販売を開始した。東潤ではサケ、マスや海藻類の養殖も始めた。

3. 台湾の海洋深層水資源利用の課題

一方、台湾政府は花蓮から 100 数十 km 南の台東県内に国が支援する海洋深層水の取水・研究・事業利用分水施設の建設を決めた。一つは水産試験場の分室として、台東市の海側で、水深約 610m から日量 4,000 トンの海洋深層水を揚水し、重要な水産資源生物の遺伝子資源保存を主な目的にし、その他農業利用など海洋深層水の様々な資源性の利用を目指している。もう一つは水利署の発注で、台東市の南の知本川南側で、水深約 700m から日量 12,000 トンの海洋深層水を揚水し、冷熱エネルギーを始めとした多様な資源性の多段利用を目指している。二つの施設の工事は 2009 年に始まり、2011 年には完成の予定であったが、いずれも海洋深層水の取水管 (外径 50cm の硬質ポリエチレン管) の敷設で、特に、浅海部でのトンネル (水産試験場) とトレンチ (水利署) の工事が難航している。

S0-1.Utilization of deep ocean water resources in Taiwan

○Masayuki Takahashi

(Asia-Pacific Ocean Research Center, College of Marine Sciences, Sun Yat-sen University,
Taiwan)

1. Introduction

Resources of deep ocean water (DOW) was seriously concerned in Taiwan as one of promising ocean energy such as ocean thermal conversion in the late 1980s, and the headquarter of International OTEC/DOWA Association (IOA, NPO organization) was established in 1989 in Taiwan with supports of more than 50 professionals from Finland, France, French Polynesia, Italy, Japan, the Netherlands, Sweden, Taiwan, the United Kingdom, and the United States of America which stimulated greatly by publishing excellent IOA newsletters from 1990 to 2009 as well as meetings.

Taiwan government started to consider possible utilization of various DOW resources which was pushed by public interests stimulated by activities in Japan. I was invited to Taiwan in May 2004 as an advisor by the Industrial Technology Research Institute, and gave a DOW resource utilization plan for Taiwan in October 2004 after discussions with people belonging to the federal and provincial governments, universities, research institute, and industries.

2. Current activities of DOW resource utilizations in Taiwan

After my suggestions, three private companies, East Biotch Co. Ltd, Kung Long Biotch Co. Ltd., and Taiwan Yes Deep Ocean

Water Co. Ltd.. installed their own pipes independently along the coast from Hualien Port (south end) to Qixingtian (north end) about 5-10km distance each other in 2005-2007. Each company produces bottled water, salt, minerals, cosmetics and alcohols equally under strong influence by Japanese activities. East Biotch also produces aquaculture products such as trout, salmon and some seaweeds.

3. Current problems of DOW resource utilizations in Taiwan

The federal government decided to construct 2 research institutions on DOW research and technology development in Taitung, about just over 100km south of Hualien; one for fisheries and agriculture agency for maintaining genes of important species for fisheries using 4,000tons of DOW per day from ca610m depth and the other for energy utilizations using 12,000tons per day from ca700m. Although construction is scheduled to be completed within 2011 after starting March in 2009, both facilities have faced to difficulties to install the pipes for DOW.

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2**第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ****海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄****海洋深層水利用学会**

- 1) 連名の場合は“・”で続け、講演者の左肩に“○”印を付けること。
- 2) (所属) は氏名の後ろにカッコして記載のこと。
- 3) 申し込み後の手続きもありますので、TEL 及び E-mail アドレスは必ず記入してください。
- 4) 展示用パネル (A1 サイズ)、画鋏・テープは主催者側で準備します。
- 5) 展示品の展示と撤去は原則として出展者側でお願いします。

DOWAS NEWS 2025 Vol.28 No.2

第 29 回海洋深層水利用学会全国大会 海洋深層水 2025 久米島大会のお知らせ

海洋深層水利用学会全国大会実行委員会委員長 桃原秀雄

海洋深層水利用学会

海洋深層水利用学会 2025 年度定期総会及び講演会報告

海洋深層水利用学会事務局長 今田千秋

【定期総会】**【日時】** 2025 年 5 月 21 日（水） 15:15-16:15**【場所】** 東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室 及び オンライン（Zoom）によるハイブリッド開催**【配布資料】** 海洋深層水利用学会 2025 年度定期総会議案書（議案全 20 頁、巻末資料 21～34 頁）**【議事】****1. 2024 年度事業報告**

事務局および各委員会から、2024 年度事業についての報告が議案書 3-11 頁に基づき行われた。

2. 2024 年度会計報告

事務局から、2024 年度会計収支が議案書 12 頁に基づき説明された。

3. 2024 年度監査報告

日向野会計監査（大塚会長代読）から、監査を 2025 年 3 月 14 日に行い、会の会計は適正に処理されていると認めた旨、議案書 13 頁に基づき報告された。

4. 2025 年度事業計画

事務局および各委員会から、2025 年度事業計画について議案書 14-18 頁に基づき説明があり、承認された。

5. 2025 年度予算

事務局から、2025 年度予算案が議案書 19 頁に基づき説明され、原案どおり了承された。

6. その他

下記①～④について議案書 20 頁に基づき説明され、原案どおり了承された。

① 「若手の会」の創設について

② 会則の加筆一部修正案（学生会員の明確化および会費改定）について

③ 学生会員の情報交換会参加費に関する細則案について

④ 団体会員に所属する「構成員」に関する会則修正案について

※総会資料については、海洋深層水利用学会ホームページを参照願う。

【講演会】

時間：16:30～17:15

会場：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館大会議室および Zoom によるハイブリッド開催

講演題目：

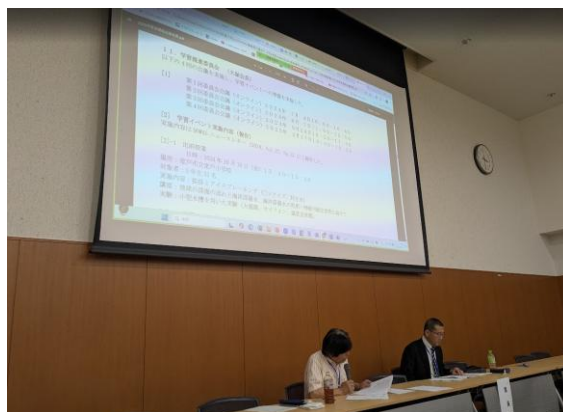
「海洋深層水の資源としての着目の歴史と世界の現状」

講演者：高橋 正征 先生（東京大学名誉教授・高知大学名誉教授・（公財）日本科学協会・（公社）日本水産資源保護協会）

【参加状況など】 2025 年度総会・講演会は、現地会場に 17 名、オンラインで 22 名にご参加いただき、また 24 通の委任状をご提出いただきました。これにより、合計 63 名の参加をもって総会が成立いたしました。総会では、大塚会長が司会として選出され、2024 年度の活動実績と予算実績、および 2025 年度の活動案と予算案について、出席者の皆様に諮り、承認されました。ご多忙の中、本総会にご参加いただいた会員の皆様には、会の運営にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

【講演会について】

今年の講演会は、高橋 正征 先生（東京大学名誉教授・高知大学名誉教授・（公財）日本科学協会・（公社）日本水産資源保護協会）をお招きし、「海洋深層水の資源としての着目の歴史と世界の現状」と題したご講演をいただきました。高橋先生は、これまでの歴史的経緯を踏まえつつ、海外における近年の海洋深層水利活用の取り組み、そして今後期待される利活用について、多岐にわたるお話をしてくださいました。ご多忙の中、ご講演いただきました高橋先生に、心より感謝申し上げます。



Dowas News 2025 Vol.28 No.2

海洋深層水利用学会 2025 年度定期総会及び講演会報告

海洋深層水利用学会 事務局長 今田千秋

